

平成 26 年度

# 年 報

— 博物館はこんなことをやりました —



AZUMINO CITY TOYOSHINA LOCAL MUSEUM

安曇野市豊科郷土博物館

# 目次

<p><b>I ようこそ安曇野市豊科郷土博物館へ</b> 博物館の概要 1</p> <p>1 開館からの略歴 2 当館の目指すところ 3 平成 26 年度・活動方針</p>	<p><b>V 調査研究や企画展覧会について</b> 調査研究活動と企画展覧会の方針 9</p> <p>1 市直営施設移行 3 年目に重点的に進めたこと 2 安曇野の自然・歴史・民俗に関して 3 展覧会の企画と展示の方法に関して</p>
<p><b>II 博物館内部はこうなっています</b> 運営体制 2</p> <p>1 博物館職員の紹介 2 館内の施設 3 平成 26 年度予算</p>	<p><b>VI 資料センター・資料館と連携します</b> 他施設との連携協力体制 11</p> <p>1 各資料館の活動と博物館との関係 2 文化財資料センターとの協力体制</p>
<p><b>III 博物館が取り組んでいること</b> 主な活動実績 3</p> <p>1 入館者数と内訳 2 企画した展覧会 3 実施した講座・講演・説明会 4 寄せられたご相談等への対応 5 市民とつくる、友の会活動 6 学芸員実習など 7 館内外活動への取材と広報</p>	<p><b>VII 当館に寄せられたみなさまのお言葉</b> アンケートからみる外部評価 12</p> <p>1 来館者アンケート 2 展示をみていただいた方から寄せられた声</p>
<p><b>IV 所蔵している資料とその使い方</b> 資料の管理と活用体制 8</p> <p>1 収蔵資料数と主な内容 2 平成 26 年度に受け入れた資料の概要 3 所蔵資料を活用している具体例</p>	<p><b>VIII 博物館のこれから</b> 目標とみなさまへのメッセージ 13</p>

## 1 開館からの略歴

昭和 54 年 4 月	多くの文化遺産の継承を使命とする生涯学習の場として豊科郷土博物館が開館しました。翌年、登録博物館になりました。以来、収蔵している自然・歴史・民俗・芸術等の資料を収蔵展示するとともに、各種企画展示を開催してきました。友の会を核とした活動も活発に続いています。
平成 17 年 10 月	5 町村の合併により安曇野市が誕生しました。当館は財団法人による指定管理のもと、市唯一の博物館としての活動を継続してきました。
平成 24 年 4 月	安曇野市の直営施設となり、市の主要文化施設として文化の発信と地域に根付いた活動を行い現在に至っています。平成 25 年度、屋根とトイレを改修し常設展示を替えて、26 年 3 月にリニューアルオープンしました。

## 2 当館の目指すところ

郷土安曇野の文化財から自然・歴史・民俗を対象に庶民の生活に寄せた資料を収蔵・展示することで、心の豊かさを求め新たな文化創造に向けその土壌作りを目指しています。併せて、活動する博物館として生涯学習の場を提供し推進することも大切な目標としています。

## 3 平成 26 年度・活動方針

安曇野市の中核的博物館として、以下の 3 点を重点目標に運営してきました。

- ◆ **常設展示替えを契機として、より親しみやすく活用される博物館を目指します。**  
常設展示のリニューアルを完成させ、展示をもとに安曇野市内各地に出かけ実際の風物に接していただけるよう工夫したインフォメーションコーナー設置や、水で遊ぶおもちゃを作り使って遊び楽しむ体験コーナーにより、より親しみやすく活用される博物館の実現を図ってきました。
- ◆ **各施設との連携を強め互いに協力して館活動を活性化します。**  
新たに加わった貞享義民記念館を含め資料館や資料センターと力を合わせ、子ども体験教室など魅力的な学習会の実現に努めました。また、収蔵している資料について展示等活用を多くできるようにし展示説明などに協力することで、それぞれの施設の活性化を進めました。
- ◆ **市民のみなさまや関係団体との協力支援の輪を広げる活動を進めます。**  
安曇野市商工会との緊密な連携のもと企画展の講演会・講座や展示が実現し、県立歴史館と一体化しての講座が新たに開設できました。市内企業とその従業員のみなさまなど多くの方々の協力で可能となった展示であり、博物館をお支えいただく体制が強まっています。



明南小学校縄文土器作り出前講座



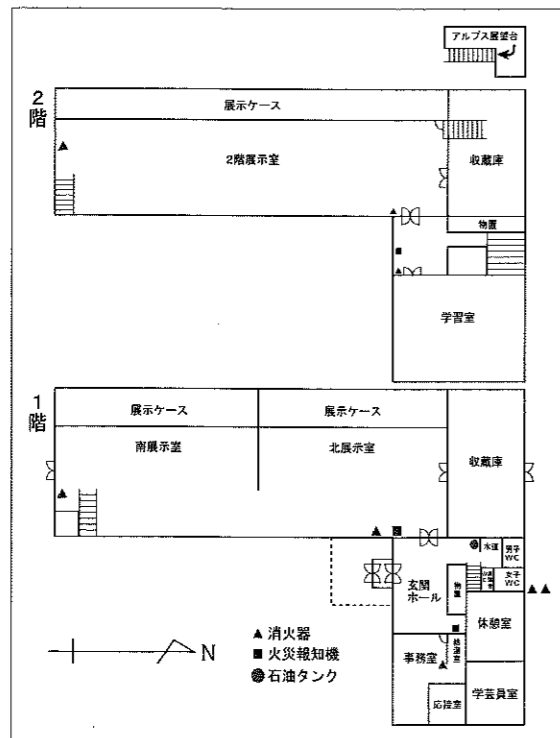
エジソン展ガラ紡機体験イベント

1 博物館職員の紹介

館長 百瀬 新治	博物館を総括し、運営全体をみています。学芸員と同様に、展示の企画や作業に加わり講座や学習も行っています。
学芸員 逸見 大悟	担当する展覧会を中心に展示の企画・実施をします。主に歴史等を研究調査し、予算や提出文書作成を担当しています。
学芸員 宮本 尚子	展覧会や館内環境整備を担当し展示や掲示を進めています。主に民俗等を研究調査し、収蔵資料等の受け入れや管理を進めています。
学芸員 矢口 友美	館内施設や展示品の保守点検を担当し、友の会活動の支援を行なっています。主に歴史等を研究し、美術館博物館連携事業等を担当しています。
事務員 瀧澤 明子	外部との文書の作成や館の収支計算を担当しています。窓口でお客様の案内や入館者の対応をしています。
事務員 宮澤紀美子	窓口でお客様の案内や対応をしています。展示の実務的な作業や解説文の作成をサポートしています。
事務員 浅川 君江	窓口でお客様の案内や対応をしています。文書作成や博物館資料管理のサポートをしています。

2 館内の施設

- 敷地面積 2,016 m<sup>2</sup>
- 建物（鉄筋コンクリート造 2階建）面積 747 m<sup>2</sup>（延床面積 1,020 m<sup>2</sup>）
- 平面図



3 平成 26 年度予算

総額 約 19,400 千円  
 本年度は刊行物印刷費・リース料・光熱費・人件費等に使われています。

1 入館者数と内訳

入館利用者総数	8,118 人	（平成 25 年度数 7,688 人 対前年度比率 105%）
有料入館者数	1,553 人	（平成 25 年度数 2,152 人 対前年度比率 72%）
児童生徒入館者数	1,113 人	（平成 25 年度数 680 人 対前年度比率 163%）

※平成 25 年度年報の 404 人は誤りです。謹んでお詫び申し上げます

2 企画した展覧会

①第 30 回「白鳥写真展」

4 月 5 日（土）～5 月 6 日（火） 開館日数 29 日  
 安曇野に飛来した白鳥の写真を公募し展示しました。  
 出品 54 人 93 点 入館者数 954 人 1 日平均 32.8 人



白鳥写真展

②「安曇野のエジソンたち」（夏季特別展）

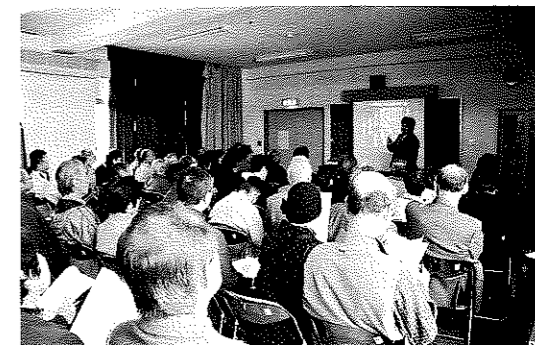
7 月 19 日（土）～8 月 31 日（日） 開館日数 38 日  
 安曇野には、ガラ紡機の発明をした臥雲辰致をはじめ発明家＝エジソンたちが多数存在します。地域に受け継がれた発明の歴史を展示で紹介しました。  
 入館者数 2,210 人 1 日平均 58.1 人



安曇野のエジソンたち

③「安曇野のいくさ～いのちを守る戦国の知恵～」  
 （秋季特別展）

10 月 4 日（土）～11 月 24 日（月） 開館日数 45 日  
 武将たちが激しく争った戦国時代、民衆たちから見た「安曇野のいくさ」を展示で紹介しました。  
 入館者数 1,314 人 1 日平均 29.2 人



県立歴史館連携講座「はざまにおかれた城と人々」

3 実施した講座・講演・説明会

1 博物館講座

①「新発見！穂高神社御船祭りの古文書」講座

4 月 6 日（日） 参加人数 23 人  
 オフネ祭りに関する新発見資料で学びました。

②「水で遊べるおもちゃをつくろう！」体験講座

5 月 5 日（月） 参加人数 18 人  
 水でっぽう作りなどを体験しました。



② 水で遊べるおもちゃをつくろう！

③「野鳥観察会」自然観察講座（長峰山）

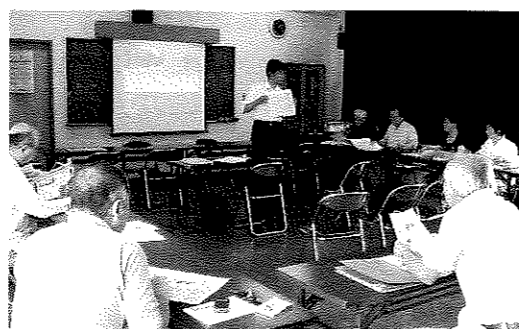
第1回 野外観察 5月17日（土）参加者13人  
第2回 野外観察 11月8日（土）参加者11人  
長峰山にやってくる渡り鳥や留鳥など、季節を変えて観察することで、さまざまな野鳥の生態や生息する自然環境を学ぶことができました。



③「野鳥観察会」自然観察講座

④「十返舎一九『御法花』読書会」講座

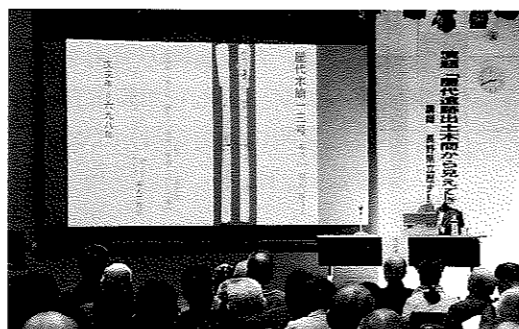
第1回 6月8日（日）参加者11人  
第2回 6月21日（土）参加者14人  
第3回 7月13日（日）参加者7人  
安曇野に関係した十返舎一九の作品を読み深めました。



④ 講座『御法花』読書会

⑤「縄文土器を作ろう！」体験講座

6月14日（土）参加者15人  
10月18日（土）参加者17人  
縄文土器を実際を作ることで縄文文化に触れての体験をしました。



⑧ 第1回「安曇野歴史散歩 屋代遺跡出土木簡から見てきた信濃の古代」

⑥「中房タイムトラベルーひと・温泉・微生物ー」講座

6月29日（日）参加者20人  
国の天然記念物や登録有形文化財がある中房温泉周辺を現地踏査しました。

⑦「昔の暮らしを体験しよう！」体験講座

10月5日（日）参加者25人  
国の重要文化財「曾根原家住宅」を会場に、戦争体験を聞いたり、大麦の虫かごづくりやいろいろ生活の体験をしました。



⑨ 伝統食を楽しむ～安曇野のお正月～

⑧「安曇野歴史散歩」講座

第1回 10月19日（日）参加者91人  
第2回 11月15日（土）参加者36人  
第3回 2月11日（水）参加者163人  
明科廃寺関連の講演会と現地見学を継続実施しました。

⑨「安曇野の伝統食を楽しむ～安曇野のお正月～」体験講座

11月30日（日）参加者19人  
安曇野で伝統的に伝わってきたお正月のごちそうを手作りして食べました。

⑩「押絵で干支をつくってみよう～未年編～」体験講座

12月6日（土）参加者27人  
恒例になっている干支の押絵づくりに親子で挑戦しました。



⑩ 押絵で干支をつくってみよう～未年編～

⑪「こたつを囲む」講座

第1回 1月24日（土）～第9回 3月21日（土）  
毎土曜日総計9回 延べ参加者107人  
各学芸員が調査研究したことから講座内容を定め、参加定員を少人数にすることで、講師が直接呼びかけ、質疑応答ができる形式で話を聞く会を重ねました。

② 平成26年度夏季特別展「安曇野のエジソンたち」関連企画



① オープニング講演会

① オープニング講演会

7月19日（土）参加者90人  
講師 橋本稔氏（信州大学繊維学部教授）  
介護用に開発した装着ロボットの開発と展望について講演いただきました。

② 実演体験 DAY

7月30日（水）参加者16人  
8月8日（金）参加者29人  
ダンボール装置を使う料理や除菌消臭の使用実演方法を体験しました。



② 実演を参考に体験する来館者のみなさん

③ ギャラリートーク

8月3日（日）参加者61人  
発明家の家族の方3名に、日常生活から素顔に迫るお話をいただきました。

④ ガラ糸紡ぎ体験

8月3日（日）参加者69人  
8月8日（金）参加者37人  
展示資料を活用して、発明された紡績機を動かし綿から糸を紡ぎました。



⑤ 3Dプリンターを楽しむ子どもさんたち

⑤ 3Dプリンター体験会

8月6日（水）参加者61人  
8月7日（木）参加者79人  
自分で考えた作品を先端技術の3Dプリンターを用いて製作する体験をしました。

⑥ 「臥雲辰致を育んだ安曇野」現地見学

8月6日（水）参加者35人  
市内堀金を中心に発明家臥雲辰致の誕生までを現地を訪問しながら学びました。



⑥ 臥雲辰致の足跡をたどる現地見学

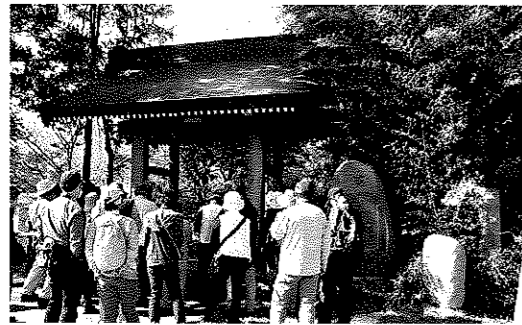
⑦ 「臥雲辰致の功績に触れる」県外見学

8月20日（水）参加者29人  
愛知県岡崎市豊橋市に出かけて臥雲の功績や現在のガラ紡に触れてきました。





### 3 平成 26 年度秋季特別展「安曇野のいくさ～いのちを守る戦国の知恵～」関連企画



①安曇野の山城めぐり

#### ①「安曇野の山城めぐり」現地見学

10月26日(日) 参加者29人  
市内に築かれた山城を踏査し、その構造や歴史に触れて楽しめました。



③古文書からみた安曇野の戦国時代

#### ②「はざまにおかれた城と人々」講演会

11月16日(日) 参加者57人  
長野県立歴史館との連携講座を兼ねて、戦国時代の安曇野について、庶民の知恵や手だてを講演していただきました。

#### ③「古文書から見た安曇野の戦国時代」

11月22日(土) 参加者49人  
普段目にするのできない古文書から戦国時代の安曇野の姿を垣間見る講座でした。

### 4 出前講座



①昔の暮らし体験教室

#### ①「昔の暮らし体験教室」

市内全小学校3年生946人参加(含 松川村立松川小学校)  
暮らしの道具等を多く持参し、実際に使う体験を通して昔前の生活を楽しみながら学びました。

#### ②「小中学校へ出前教室」

出前授業 市内小中6回 305人参加  
出前講座 市内外 6回 212人参加  
要請に応じ、出前講座・授業として博物館からの取り組みに力を注ぎました。

#### ③「各種講演・出前講座(団体等)」

デイサービスセンター、地域の歴史学習  
団体等 総計9回 359人参加  
要望に応じて学芸員中心に出前講演・講座に出向きました。

### 4 寄せられたご相談等への対応

博物館事業に関する質問等や市内の文物に対して数多くのレファレンス(問い合わせ)や調査相談がありました。文書に残っているもので総計86件の問い合わせがあり、学芸員が分担してお答えしたりさらに調査等をして記録に残してきました。

歴史資料や文化財に関する所在地や云われから疑問点とその究明方法等を問い合わせる質問が高い割合を占め、博物館での展示内容や刊行物の説明等への不明点やご意見も比較的多くありました。自分が住む地域の行事やあるいはご自身が所有している文物の意味や価値をたずねる例や、今後の保護策及び寄贈等活用策を相談する例も目立ちました。

展示内容等に関しての不明点等博物館の調査研究に直接触れてのレファレンスについては、館内さらに教育委員会で情報を共有し今後役に立てることのできる方策を講じています。

### 5 市民とつくる、友の会活動

#### ①部会と会員数 ( )内は人数

絵手紙(17) 押絵(6) 郷土史(29) サクラソウ部(11) 山草(22) 刺しゅう部(6) 自然部(112)  
写真部(9) 植物画部(19) 書道部(25) 水墨画(5) 美術部(28) 総計 12部 289人

#### ②講座・学習会等の活動

各部で毎月1~2回の講座を催したり、自然探訪会や現地見学会を実施しています。友の会全体で110回の講座・学習会が開催され、11回の館外研修がありました。

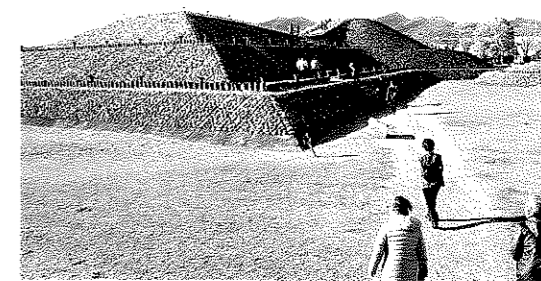
#### ③展覧会の実施

全7回の展覧会が開催されました。各部が合同で開催する総合芸術展を含めて、総計2604人の観覧者がありました。

#### ④全体活動

- ・視察研修 群馬県南部方面 参加者24人
- ・美化活動 年3回実施 延べ参加者数82人
- ・会報発行 年3回

自主的研修活動とボランティアによる環境整備を大切に考え、役員中心に構想から実施まで行っています。



平成26年度友の会研修旅行(群馬県方面)



学芸員実習(考古資料の扱い)

### 6 学芸員実習など

本年度の当館での学芸員実習の希望は3名でした。博物館業務を具体的に実践することを通しての実技体験を重視した各種研修を実施してきました。また、各自の企画によるコーナー展示に取り組むことで、自ら調査研究して展示等に結び付ける創造性に触れての研修を行いました。

### 7 館内外活動への取材と広報

展覧会情報と展示物の紹介、さらに体験講座や記念講演などの活動を各報道機関に周知しました。本年は市商工会との提携で実施した企画展でマスコミ利用が実施できたことから、テレビでの報道が4件ラジオがコマーシャル枠を含め約30件、新聞では関連記事も含め約49件、展覧会の感想など読者投稿が1件、催し物案内等は市広報を含めて数十件の掲載がありました。特に、夏季特別展『安曇野のエジソンたち』については、各展示コーナーごとの展示に向けての調査研究で判明したことや展示の見どころを執筆し、展示を速報する形式で5回連載して発信できた点は、今までの広報の枠を広げる取り組みとして具体化できました。この他にも学芸員の寄稿した記事が掲載された例が増え、博物館の調査研究や展示に直結する広報活動が自分たちの原稿を通して発信できました。

インターネットのホームページとブログを通しての博物館からの発信は、更新密度が高まるなど質・量ともに充実しました。インターネットの情報をもとに市外から来館されるお客さまのようすなどから、今後を見通した広報の改善を強く感じています。

#### ② 臥雲紫明と脱穀機

安曇野の  
エジソンたち  
農機具改良で特許次々

安曇野の  
エジソンたち  
農機具改良で特許次々

安曇野の  
エジソンたち  
農機具改良で特許次々

安曇野の  
エジソンたち  
農機具改良で特許次々

安曇野の  
エジソンたち  
農機具改良で特許次々

安曇野の  
エジソンたち  
農機具改良で特許次々

平成26年8月14日付  
『市民タイムス』掲載原稿



1 収蔵資料数と主な内容

平成 26 年 4 月 1 日現在の収蔵品数と主な収蔵品名は以下のとおりです。

- 歴史資料 約 13,000 点 豊科町関係旧村文書・藤森桂谷文庫・小穴亀一文庫・旧吉野小学校教科書・南穂高村消防組資料・豊科町誌関係資料 等
- 民俗資料 約 1,700 点 農耕・養蚕・漁労関係資料・衣食住関係資料
- 美術資料 約 300 点 小林章・藤森桂谷・井口香山・小川大系 等
- 自然資料 約 5,300 点 動物剥製・昆虫標本・化石標本 等
- 蔵書その他 約 7,000 点

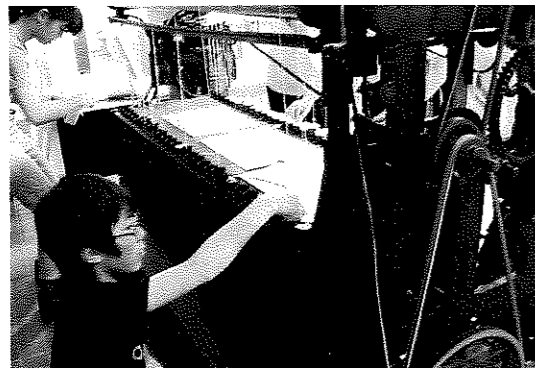
収蔵品総点数 約 27,300 点

2 平成 26 年度に受け入れた資料の概要

- 和田陽子氏 寄贈 七夕人形 4 組
- 安曇野市教育会 寄贈 昆虫・植物標本、考古資料等 総計 252 箱  
(会長 伊藤可主也氏)
- 中澤道夫氏 寄贈 民具 (醸造用の樽他) 52 点

3 所蔵資料を活用している具体例

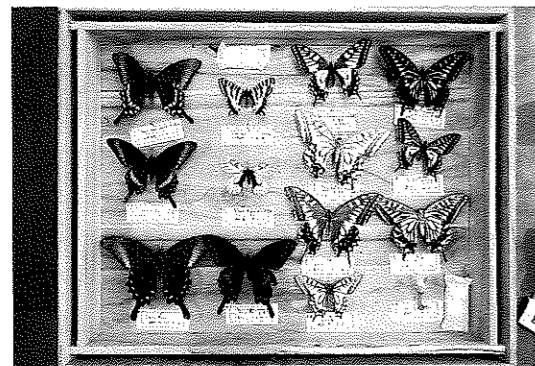
- 1 階展示室の常設展示や館内各所でのコーナー展示として、各資料館等の収蔵資料を含め可能な限り多くを展示しました。
- 資料センター収蔵資料を含め、企画展に関連させる形で資料を位置付け展示したり、各種刊行物に掲載していく等工夫して活用しました。
- 体験講座や出前授業において民具等の実物に触れる機会を積極的に増やすため、使用方法や補修等に留意しつつ館外活用も活発に行いました。



特別展での収蔵資料の体験展示 (エジソン展)



特別展での収蔵資料の活用 (いくさ展)



教育会寄贈資料 (一部)



寄贈資料の活用 (七夕人形)



1 市直営施設移行 3 年目、常設展示のリニューアルを受けて重点的に進めたこと

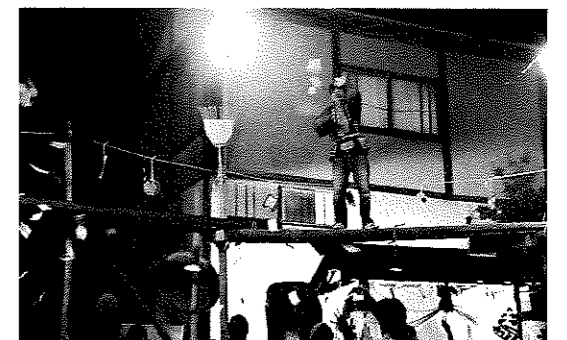
- 昨年度末のリニューアルオープンを経て、さらに市内全体を網羅した調査研究と展示の充実を通し、より親しみやすく利用しやすい博物館を目指して取り組んでいます。その具体化として、常設展示のテーマを「安曇野をめぐる水と私たちの暮らし」に替えるとともに、水に関係したおもちゃを自作し遊ぶ『体験コーナー』、“見どころシート”で展示の内容と現地を結ぶ『インフォメーションコーナー』を新設して、お客さまに親しみやすく楽しんで学べる展示実現に向け展示方法を工夫してきました。
- すでに閉館となっている明科・三郷・堀金の歴史民俗資料館と安曇野市文化財資料センターに保管収蔵されている資料について、博物館の各種展示資料・体験講座の使用道具などとしてできる限り活用しました。穂高郷土資料館では、相互で展示方法や表示の更新等を協力して進める中で、引き続き各資料館の資料の保存と活用に取り組んでいます。
- 恒例のようになりつつある市内全小学校 3 年生を対象とした体験教室は、今年も 1 月末から 2 月上旬に集中して実施できました。穂高郷土資料館等のみなさんを中心とする指導者チームが、当日の運営はじめ準備から修繕等にかかわっていただき、他都市の学校から開催要請が寄せられるほど活動の質が高まっています。
- 夏季特別展「安曇野のエジソンたち」では、ガラ紡績機の発明をはじめ明治時代以降の市内を舞台に機械道具類を改良した人たちに焦点を当て、現在の安曇野市内の製造業までの物づくりについて具体物を主にわかりやすく展示しました。長野県下でも工業生産の盛んな地域となっている安曇野市の現状について、安曇野市商工会・安曇野工業会との共催事業で支援・協力をいただき、より具体的に充実した展覧会に向け地域連携を試みました。
- 秋季特別展「安曇野のいくさ～いのちを守る戦国の知恵～」では、他地域と同様に戦乱が続いた戦国時代の安曇野を舞台に、戦いの場で被害を与えられることの多い民衆の立場から「いかにして生命や財産を守ったか」を関係する古文書や考古資料の展示で具体的に紹介しました。関連するイベントとして、山城めぐり等で実際の史跡に直接触れ現地で体感的に学び楽しんでいただける見学を実施しました。

2 安曇野の自然・歴史・民俗の調査研究に関して

- 伝統行事や民俗儀礼の現地調査や聞き取りは継続して取り組むとともに、民具等資料について市民のみなさんからの情報に、できるだけいねいに対応し保存活用策を考えてきました。
- 文学における歴史分野の調査に関連して、安曇野文芸の会との共催による十返舎一九著『御法花』の読書講座を開催しました。自然分野については、安曇野市の昆虫や植物の標本を寄贈いただくについての基礎的調査をし内容をまとめました。
- 学芸員が業務等に関して各自で調査等を進めている内容を、少人数で気軽に聞いていただくことを趣旨に「こたつを囲む博物館講座」を企画実施しました。5 講座 9 回の講座では述べ 107 名の参加があり、質問等活発なやりとりのある調査等発表会が実現しました。
- 新博物館建設の構想検討が進展している状況を受け、閉館している資料館からの引継ぎを含め、資料の収蔵から活用に向け調査を進めています。



「こたつを囲む」講座



現地調査した生坂村草尾の道祖神祭り



### 3 展覧会の企画と展示の方法に関して

安曇野市直営施設として再出発し3年を経過していますが、まず博物館の存在を広く市民の方に知っていただくことを大切にここまで取り組んできました。展覧会の企画においても、博物館でわかりやすく楽しく観覧できるよう魅力のある内容と工夫した展示になるよう努めてきました。

本年度夏の特別展では、歴史や現状を踏まえつつ将来を見通すことを重視した構想を進め、市民のみならずの現生活における興味関心に直接関わるとともに安曇野市としての課題と今後の展望等につながる展覧会を考えてみました。観覧する側にとって、自分の実生活を見返し将来を見通してみる機会となるような展示にできればと願ったのです。その実現のため、市内における近代以後の工業生産の歩みを、道具の発明に焦点を当てた『安曇野のエジソンたち』展として以下に示す新たな試みのもとで進めてきました。

①平成23年まで県内市町村別工業製造品出荷額等でトップに位置していたように、安曇野市の盛んな工業生産（物づくり）は今日の地域的特色の一つとなっています。独創的で先進的な企業の生産活動が市内での活発な工業生産につながっていることから、企業の全市組織である安曇野市商工会（工業部会）と安曇野工業会に対し格段の協力を依頼し、生産現場や製造された品を具体的に見学できるよう努めてみました。特徴ある物づくりを進めている市内企業から以下の16社を選定し、企業別に展示スペースを設けてそれぞれの創意による展示を依頼し実現できました。

#### 出展企業名

株式会社アズミ村田製作所／株式会社エイワ／株式会社コンラックス松本／GAC株式会社  
株式会社サーキットデザイン／株式会社サンキ／株式会社ちくま精機／株式会社細川製作所  
株式会社南安精工／株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ／株式会社マル井  
株式会社ワカ製作所／協和ダンボール株式会社／ゴールドバック株式会社／日本エフディ株式会社  
日本フェンオール株式会社

②臥雲辰致に始まる近代安曇野の機械発明や改良の歴史について、遺族のみなさんの協力を得ながら今までほとんど知られていない業績を掘り起し実際の姿に近い展示に結び付けました。発明・改良した機械類が複製品を含め目に見える資料で見学できるようにするとともに、発明にいたる経過や発明家の人となりや家族の方に直接語っていただくなどの工夫をしました。

③今回の企画展は、安曇野の将来を担う子どもたち（小中学生）にとっては、今後の就職などに関係するキャリア教育の一面をもっています。興味関心を持って観覧見学する子どもが増えるよう、来館記念として手づくりで仕上げていく品をプレゼントしたり、3Dプリンターを活用して自作する体験講座を開催するなど、体験体感を伴う子ども向けイベントを実施しました。



安曇野の企業による展示



企業による実演を楽しむ子どもたち

## VI 資料センター・資料館と連携します

他施設との連携協力体制

### 1 各資料館の活動と博物館との関係

①閉館によりすでに資料が文化財資料センターに移されている旧明科歴史民俗資料館及び、すでに閉館し展示等がされていない旧三郷民俗資料館、旧堀金歴史民俗資料館については、収蔵資料のうちから企画展等の展示に向けてできるだけ積極的に活用してきました。

②穂高郷土資料館と連携し、市内の全小学校への出前講座がより充実した内容で実現できるよう準備から補修等まで一体で取り組みました。

③穂高郷土資料館の学芸的事業、とりわけ展示について、より充実した内容になるよう両館職員で協力しました。展示替えを順次進めることや展示説明の更新により繰り返しの来館者増に向け手を付けています。

### 2 文化財資料センターとの協力体制

平成24年度より旧穂高学校給食センターを改修しての資料収集及び整理ならびに調査研究の場として「安曇野市文化財資料センター」が開設されて3年目を迎えています。

平成26年度は、安曇野市教育会から寄贈された資料（昆虫・植物・鳥類標本等の自然資料、考古資料等 総計252箱）を整理し、自然資料を当館収蔵施設として利用している旧堀金歴史民俗資料館へ収蔵、考古資料はセンターへ収蔵しました。

常に市内の文化財等諸資料を収蔵する拠点としての資料センターに対応し、資料の整理・保存にあたり、博物館等の教育普及活動を支える活動をしています。



旧堀金歴史民俗資料館へ収蔵された資料



資料センターで整理された資料を活用した常設展示を見学する市内小学生

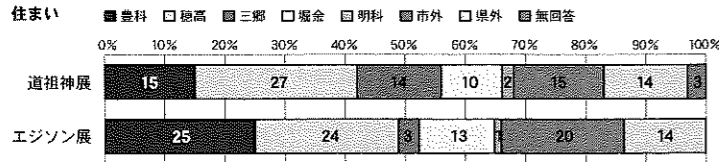




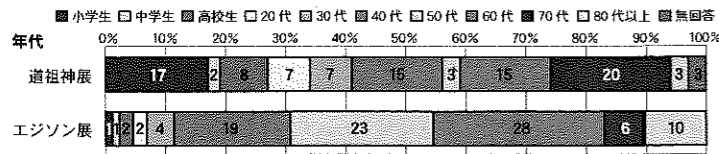
「安曇野のお祭り展Ⅱ～よろず願いごと引き受けます～道祖神～」(平成25年)と「安曇野のエジソンたち」(平成26年)で実施した来館者アンケートをまとめ、比較しました。

1 来館者アンケート

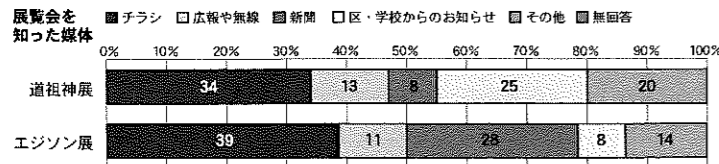
Q1 どちらからお出でいただきましたか？



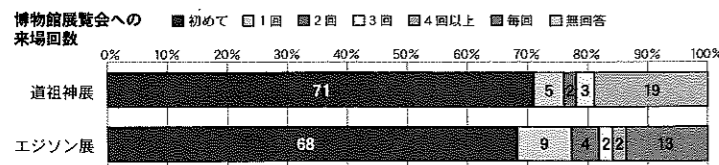
Q2 年齢はおいくつですか？



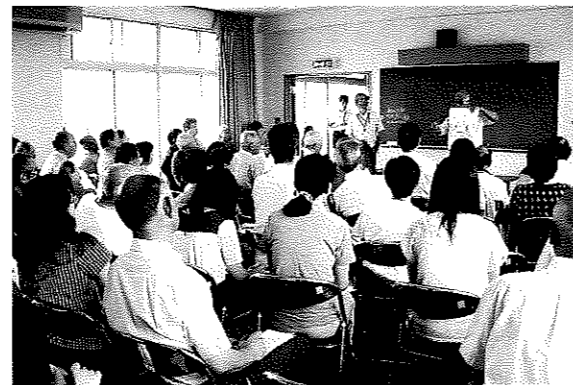
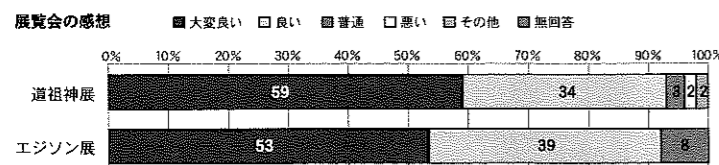
Q3 どちらでこの展覧会を知りましたか？



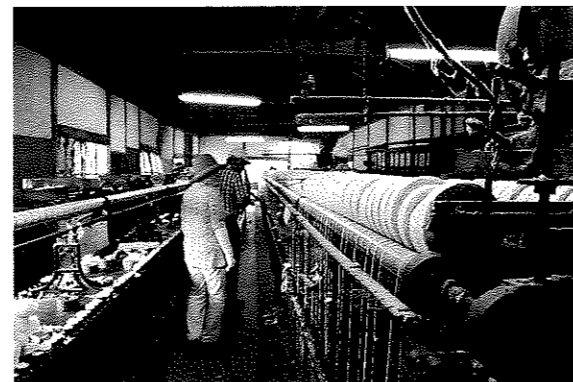
Q4 博物館には何度目のご来館でしょうか？



Q5 展覧会をご覧いただいた感想はいかがでしたか？



エジソン展ギャラリートーク



臥雲辰致の功績に触れる県外見学

2 展示を見ていただいた方から寄せられた声

- ・『臥雲辰致』という発明家は全く知らなかったのですが、財を成し有名になっていないけれど、キラッと光る人に役立つ知恵に心を動かされ、そこに目をつけた博物館の心意気を感じました。
- ・安曇野では地元の企業が多種多様な製品が生産されており世界に向け発信販売をしていることがわかり、将来の市の発展がとても楽しみになりました。
- ・3Dプリンターの体験企画とても勉強になりました。このような独創的な企画をどんどん打ち出して、松本の新聞にも載せてください。また来たいと思っています。
- ・記念講演会は人にやさしいロボティックウェアの開発という、展覧会テーマにふさわしい内容で、自分の老後を含め切実な問題を解決する明るい未来展望を感じました。
- ・資源の少ない日本では、このような発明・開発力が重要で、その第一歩である物づくりに焦点を当てたとても良い展覧会だと思います。
- ・ビデオシアターとか映像で見られる設備があるともっとわかりやすいと思いました。
- ・冷房の効いた展示室でゆっくりと見学したいです。エレベーターも必要ですね。

安曇野市直営の博物館として再スタートし常設展示のリニューアルを経た今年度、ここまで示した内容で事業を進めてまいりました。安全面に配慮した施設改修と展示替えが来館されるお客さまにとって快適な博物館となり、魅力や親しみをもって繰り返し訪れていただきたいと館職員みんなが願いながらの日々でした。博物館外部から寄せられたお声や数値として記録に残る成果などから、徐々にではありますが確かな手応えを感じ、今後の活動につながる見通しもできつつあります。しかし、その反面まだまだ至らない点や検討課題も明らかになってきています。

来年度も、市民の博物館として親しまれわかりやすく充実した博物館活動を目指して、引き続き努力してまいります。とりわけ以下の点に力を注いでいきたいと考えています。

親しみやすく充実した文化の発信源として、博物館は進化します

★参加し体験できる親しみやすい博物館に

展示替えの基本コンセプトでもあった、説明などのわかりやすさや触れたり体験できるコーナーをより充実する事で、博物館ならではの専門的な内容を市民のみなさまにより身近で親しみやすく利用できるよう取り組んでいきます。キャラクターに小学生中学年でも理解できる解説をさせたり多様なお客様に応じた参加型展示(クイズや体験コーナー)を複数用意してお気軽に楽しんでいただけます。

★展示などを出発点に発展性のある博物館に

同じく展示替えで新設したインフォメーションコーナーにより、市内各地の特徴ある風土や歴史を展示し、実物の所在地や季節による見どころ等を案内する取り組みを継続充実させます。加えて、企画展示に現在の市内企業やその製品を展示紹介した例のように、博物館で見聞きしたことが実生活につながるふくらみのある館活動を実現していきます。

★館職員が向上しようと務める博物館に

お客さまの要望や問い合わせにきちんと対応できるよう、館職員がそれぞれの任務に応じて日常業務を充実させます。少しでも安全で快適な館内を目指して、課題解決に一つずつ具体的な取り組みを続け改善成長する博物館を全館で進めます。

今後とも厳しくも温かく、当博物館とお付き合いいただきますようお願い致します。



「昔の暮らしを体験しよう」体験講座で戦争体験を聞く参加者





縄文土器づくりの体験出前教室・野焼きの様子（明南小学校）

平成 26 年度

## 安曇野市豊科郷土博物館

### 安曇野市豊科郷土博物館

〒399-8205 長野県安曇野市豊科4289番地8  
TEL 0263-72-5672 FAX 0263-72-7772  
公式サイト <http://azuminohaku.jp/>

発行 平成 27 年 8 月